

シネマ

シネマ・ニュース
December.2000 No.53

特別企画

アジアの ドキュメンタリー

特別企画

ジャン=リュック・ゴダール

『映画史』



書店などでよく見かける英会話の勧誘。もう一歩クレイジーさが足りないのではないだろうか。例えば、人だかりができるようなパフォーマンスで心をつかむとか。そんな業界の人にも観ていただきたい作品。

『クレイジー・イングリッシュ』 イラスト&文:山下良平

12

映画誕生から未来へ！
20世紀最大の文化的事件と言われた
4時間半の大作を一挙上映!!

解説

常に最も新しい映画を撮り続けている世界の巨匠・L・ゴダールが、10年の歳月を費やして完成させた渾身の傑作。おびただしい数の劇映画、ドキュメンタリー映画、ニュース映画、小説、詩、歴史書、歴史的証言、哲学、映画論、美術論、絵画、彫刻、写真、そして音楽からの引用によって構成されたこの作品は、まるで結晶化された「世界の総ての記憶」である。

上映にあたって

20世紀を締めくくる今年最後の上映企画として、ジャン＝リュック・ゴダールの『映画史』をお届けします。

この作品を「シネラ」で上映するにあたっては、相当勇気のいる判断が求められました。理由は三つ。まずは全8章、上映時間4時間半という大作であること。どのようにプログラムを組めば良いか途方に暮れてしまいます。次に新作ロードショーとして地方展開している最中であること。そのため1,800円という、ふだん「シネラ」を御利用いただいているお客様にとっては大変高額な観覧料となっていました。しかしながら福岡以外での上映会場では全8章を二部に分け、それぞれ別料金ということになっていましたので、これでも半額で御覧いただけることになります。

さて最後の理由ですが、それはこの作品の上映の仕方にあります。『映画史』のオリジナルはビデオです。ふつうこれほどの話題作となれば、どの映画館でも上映できるようにフィルムに変換されるのですが、ゴダールはそれを拒みました。あくまでビデオ作品として大スクリーンに投影されることを強く望んだのです。それは当然「極めて映像・音響クオリティの高いビデオ投影」でなければいけません。果たして「シネラ」でそれが可能か。もちろんここでは「可能だ」と答えるしかありません。そう答えるには「映画史」を福岡に持って来ることはできなかったでしょう。「シネラ」が誇る映像システムを最大限駆使し、画像調整には万全を期し、ゴダール自身が望んだ「映画史」の完全なる再現に全力を注ぐ。それは映画に携わる私達にとっても大きな挑戦なのです。

20世紀のありとあらゆるヴィジュアル・テクノロジーを総動員したと言っても過言では無いこのモニュメンタルな作品に最上のタイミングで出会うことができる、そんな幸運は滅多にありません。ぜひともお見逃し無く！

会期・時間：20日(水)～23日(土・祝)
14:00～18:45(途中休憩あり)
24日(日)
13:00～17:45(途中休憩あり)

観覧料：1,800円(第Ⅰ部・第Ⅱ部併せての料金)

●定員制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。●福岡市在住の65才以上の方、及び福岡市在住の障害者は900円(手帳の提示が必要です。)

主催：福岡市総合図書館 協力：フランス映画社、有楽興

映画史 第Ⅰ部・第Ⅱ部 Histoire(s) du cinéma

1998年/ビデオ(エレクトロ方式による上映)/カラー/フランス
268分(第Ⅰ部149分、第Ⅱ部119分)/日本語字幕付き

- ◆第Ⅰ部 第1章＝1A「すべての歴史」
第2章＝1B「ただ一つの歴史」
第3章＝2A「映画だけが」
第4章＝2B「命がけの美」
- ◆第Ⅱ部 第5章＝3A「絶対の貨幣」
第6章＝3B「新たな波」
第7章＝4A「宇宙のコントロール」
第8章＝4B「徴(しるし)は至る所に」

監督・編集 ジャン＝リュック・ゴダール
出演・声 ジャン＝リュック・ゴダール/ジュリー・デルビー
サビーヌ・アゼマ/アラン・キューニ

特別講演／青山真治(映画監督)

日時：23日(土・祝) 13:00～13:50

※開場は開演の30分前。入場は有料制で、『映画史』の観覧料に含まれます。

青山真治(映画監督)

1964年北九州生まれ。立教大学卒。劇場映画デビュー作「Helpless」('96、日本プロフェッショナル映画大賞受賞)が大反響と共に迎えられる。代表作に「WILD LIFE」('97)「SHADY GROVE」('98)など。映画評論も手掛ける理論派として知られている。最新作「EUREKA(ユリイカ)」は2000年カンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞とエキュメニク賞を受賞。



ジャン＝リュック・ゴダール『映画史』

●1日(金)13:00●2日(土)17:00

クレイジー・イングリッシュ

監督：チャン・ユアン(張元)

1999年/35ミリ/カラー/90分
中国/日本語・英語字幕付き



「瘋狂英語」の名前で中国全土で知られるリー・ヤンのユニークな英語教育を描いた作品。彼の英語教育は自らをクレイジーと呼ぶパフォーマンス性の強いもので、本作では万里の長城や北京大学等で行われる講義と、それに熱狂する市民達が描かれる。

●1日(金)16:00●2日(土)11:00

わたしの見島

演出：「CINEMA塾」十原一男



1999年/16ミリ/カラー/100分/日本

新しい時代の映画人を養成する目的で始まった「CINEMA塾」の第1回作品。映画は萩市の離島・見島に住む人々とその生活、そしてそれぞれの見島観を捉えていく。日本の共同体意識とドキュメンタリーのリアリティについて考察した作品。

●1日(金)19:00●2日(土)14:00

あんによんキムチ

監督：松江哲明



1999年/16ミリ/カラー/52分/日本

在日韓国人である監督は、普段自分が韓国人であることを意識してこなかった。彼の祖父は韓国を棄て、日本人になりきろうとした。祖父は孫たちに何を残し、伝えようとしたのか。監督自身の目で探る在日韓国人としてのアイデンティティ。

●1日(金)19:00●2日(土)14:00

ハイウェイ

監督：セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ

1999年/35ミリ/カラー/54分
フランス＝ドイツ/日本語・英語字幕付き



中央アジアとモスクワを結ぶハイウェイを、古いバスで旅する旅芸人の家族を描いた作品。両親と1才から16才までの6人の子供からなるタジバジェフ一家は、大道芸を見せながら旅を続ける。そんな一家の生活をカメラは淡々と描き出していく。

●6日(水)13:00●7日(木)16:00

チョンおばさんのクニ

監督：バン・チョンイ(班忠義)

2000年/16ミリ/カラー/90分
日本/日本語字幕付き



中国の山村に住む韓国人の元従軍慰安婦のチョンおばさん。彼女の望みは一度故郷に帰ること。しかしチョンおばさんはすでに韓国語は忘れており、韓国には彼女の肉親は一人もいなかった。日本在住の中国人監督により、企画、撮影された作品。

●6日(水)16:00●7日(木)19:00

メイド・イン・フィリピン

監督：ディッツィ・カロリノ
サダナ・ブクサニ

1999年/ビデオ/カラー/84分
フィリピン/日本語字幕付き



働くフィリピン人女性をテーマにした3部構成の作品。ルソン島の衣料工場で働くエルザ。東京に住み写真や映画作りの夢を持つヴェン。福岡で生活するマーリーン、エミリー、ケイの三人の仕事と生活が描かれる。

●6日(水)19:00●7日(木)13:00

江湖

監督：ウー・ウェンガン(呉文光)

1999年/ビデオ/カラー/150分
中国/日本語字幕付き



貧しい村の親子が村を脱出するために興行師となり、村の若者を誘って、移動ショーを行う。一座はカラオケでポップスを聞かせ、ピクニックショーを目玉にして町を回る。ところが当局の目が厳しくなり、給料も出せなくなる。

●8日(金)13:00●9日(土)17:00

望郷

監督：シュウ・シャオミン(徐小明)

1997年/35ミリ/カラー/85分
台湾/日本語字幕付き



台湾において困難な状況にあるアジア人労働者について描いた作品。フィリピン人の家政婦、タイ人の建築現場労働者等にインタビューを行い、それぞれの望郷の念が綴られていく。97年山形ドキュメンタリー映画祭国際批評家賞受賞。

●8日(金)16:00●9日(土)11:00

息づかい

監督：ビョン・ヨンジュ

1999年/16ミリ/カラー/77分
韓国/日本語字幕付き



イ・ヨンスさんは第二次大戦中、日本軍により台湾に連れて行かれ、従軍慰安婦として3年間を過ごす。またキムさんは13才の時、ハルビンに連れて行かれ、そこで梅毒に感染する。この映画は彼女らの被害の賠償を求める活発な活動を描いたものだ。

●8日(金)19:00●9日(土)14:00

イラン式離婚狂想曲

監督：キム・ロンジノット
ジバ・ミル＝ホセイニ

1998年/16ミリ/カラー/80分
イラン＝イギリス/日本語字幕付き



この映画イランにおいて結婚が破綻したときの苦痛と問題を扱っており、6人の普通の女性がいかに離婚訴訟を行うかが描かれる。99年山形ドキュメンタリー映画祭国際批評家賞受賞。

監修:佐藤真(映画監督)

会 期：1日(金)、2日(土)、6日(水)～10日(日)、13日(水)～17日(日)
観覧料：600円(大人) 500円(大学生・高校生) 400円(中学生・小学生)
2,000円(5回券) 5,000円(フリーパス)

主催：アジアのドキュメンタリー実行委員会、福岡市総合図書館
後援：山形ドキュメンタリー映画祭実行委員会 協力：アース・ビジョン組織委員会

NOTICE!
WELCOME TO SHUNGON
VISITORS PLEASE OBSERVE
THE RIGHTS OF THE VILLAGE
ABSOLUTELY NO PICTURE
TAKING, RECORDING SKET
CHING OR TAKING ARTIFACT
DURING CEREMONIES.

A black and white photograph of three men standing side-by-side, each holding a large vertical scroll of Chinese calligraphy. The man on the left is wearing a dark jacket, the middle man is wearing a light-colored shirt, and the man on the right is wearing a dark suit. The scrolls they are holding contain large, expressive Chinese characters.

先住民～



インドのジャドウゴダは、インドで唯一のウラン鉱の発見により有名になった土地だ。放射性物質の危険性を知りながらもウラン会社は、人体の安全を守るための方策をなにもとっていないのだった。99年地球環境映像祭大賞受賞。

総合図書館では数多くの貴重な映像資料を収集していますが、とりわけ『リュミエール・プログラム』(35mmフィルム)は逸品中の逸品と言えるでしょう。このフィルムは1995年、「映画生誕百年祭」の一環として上映されたものです。その後、各地での巡回上映を了え、当図書館の開館とほぼ同時に収蔵されました。なぜこのフィルムが福岡にあるのかと度々聞かれます。ナショナル・アーカイヴに収蔵されるべきだろうと。

残念ですが、アジア有数のフィルム・アーカイヴである当施設のことは余り知られていないようです。

私はこのフィルムとは縁があります。福岡に来る前の職場でのこと。「東京国際映画祭」の仕事でドタバタしていた私は、ある日、それとは別件でやってほしい仕事があると言われ



リュミエール・プログラム「日本編」

ました。とてもできる状態ではないと思いましたが、とにかく手伝う以外になさそうです。フランスから来た妙に大きなフィルム缶を開けると、そこには映画の卵のようなものが詰まっていた。一分程度の短いフィルムが、それぞれ芯に巻かれた状態でばらばらになって入っていたわけでした。「こいつを明後日までに編集しなくてはならない。映画祭の仕事が遅らせるわけにはいかないから、これは深夜だけの作業だ。それでなんとか間に合わせよう」とボスは言いました。「なんですか、これ?」「リュミエールだ」……。

そういうわけで、私は深夜せつせと編集に勤しんだわけです。それは単に個々の作品を繋ぎ合わせるというだけの作業ではありませんでした。

日本で現像されたタイトルを挟み込んでいかねばならないからです。そうやって全5プログラム、約90分(1秒24換算)の作品が仕上がりました。その間ほとんど寝ていません。編集は300箇所を超えています。こんなつぎはぎだらけのフィルムがマトモに映写できるのか。「おまえが映写するのだ」とボスは言いました。翌朝には試写が組まれていたのです。

おそらくリュミエールの作品を、普通に上映できる「90分番組」の形で収集している施設は世界的にも少ないのではないのでしょうか。ここには映画の世界初上映として知られている1895年「グラン・カフェ」のプログラムがそっくり再現されていますし、明治の日本を撮影した極めて貴重なプログラムも含まれています。しかも総てニュープリント。

つまり大変な世界財産を預かっているわけです。もちろん、いかに貴重とは言え、持っているだけでは意味がありません。シネラでは過去に一度、ピアノ伴奏付きでこの作品を上映しています。おそらくまたいつかご覧いただける機会が来ると思いますので、どうぞお楽しみに。

さて今月のシネラでは、「映画生誕から未来へ!」というキャッチ・フレーズでゴダールの『映画史』を上映いたします。リュミエールに向けられるレトロな視線も大切ですが、同じ視線でもってこの『映画史』を観たならば感電死(何せエレクトロ方式ですから!)するかも知れません。それほど刺激的な作品です。

映像資料課映像管理員 松本圭二

INFORMATION お知らせ

各団体の自主上映

- 12月3日(日)11:00/14:30
「五瓣の椿」(監督:野村芳太郎)
観覧料/前売:1,500円
当日:1,800円
中高生・シニア:1,000円
主催/福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)
- ※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年1月号～平成13年3月号までの郵便切手(90円×3月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラで自主上映(非営利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申込みの受付を行いますのでお申し込みください。

○利用申込対象期間

平成13年6月から同年11月分まで

※別途配布の申込用紙に対象日を掲載しています。

○申込受付期間

平成12年12月1日(金)～12月13日(水)必着
※休館日を除く

○抽選日

平成12年12月17日(日)午前11時より

○抽選会場

福岡市総合図書館・3階第2会議室

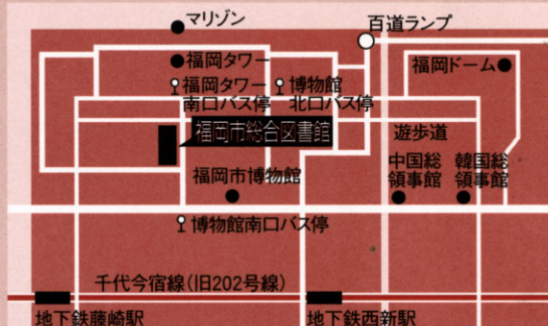
○利用申込用紙

福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出し下さい。

お問い合わせ

福岡市総合図書館映像資料課(事業係)
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
TEL 092-852-0608

1	金	13:00 クレイジ・イングリッシュ	16:00 わたしの見島	19:00 わたしの見島
2	土	11:00 わたしの見島	14:00 わたしの見島	17:00 クレイジ・イングリッシュ
3	日	自主上映「五瓣の椿」		
4	月	休 館 日		
5	火	休 映 日		
6	水	13:00 チョンおばさんのクニ	16:00 メイド・イン・フィリピン	19:00 江湖
7	木	13:00 江湖	16:00 チョンおばさんのクニ	19:00 メイド・イン・フィリピン
8	金	13:00 望郷	16:00 息づかい	19:00 イラン式離婚狂想曲
9	土	11:00 息づかい	14:00 イラン式離婚狂想曲	17:00 望郷
10	日	11:00 イラン式離婚狂想曲	14:00 講演／佐藤真	15:00 まひるのほし
11	月	休 館 日		
12	火	休 映 日		
13	水	13:00 イラン式離婚狂想曲	16:00 まひるのほし	19:00 労働間の滑稽な競争
14	木	13:00 労働間の滑稽な競争	16:00 新しい神様	19:00 ブルマダの悲しみ
15	金	13:00 ブルマダの悲しみ	16:00 美麗少年	19:00 ファガレス
16	土	11:00 ブルマダの悲しみ	14:00 美麗少年	17:00 ファガレス
17	日	11:00 ブルマダの悲しみ	15:00 美しい少年	17:00 ファガレス
18	月	休 館 日		
19	火	休 映 日		
20	水	14:00～18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
21	木	14:00～18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
22	金	14:00～18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
23	土	13:00 講演／青山真治	14:00～18:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部	
24	日	13:00～17:45(途中休憩あり) 第Ⅰ部・第Ⅱ部		
25	月	休 館 日		
26	火	休 映 日		
27	水	休 映 日		
28	木	年末・年始の休館日		
1/4	木	年末・年始の休館日		



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神～都市高速線由～福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速線由～福岡タワー南口
(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からの利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

「Y2K」で明けた2000年も残りあと1か月。シドニーオリンピックにおける女子マラソン金メダルとON対決によるプロ野球日本シリーズは、20世紀最後の年を象徴すべき出来事だったような気がする。
ところで20世紀は「映画の時代」でもある。その20世紀の最後の月にシネラが「アジアのドキュメンタリー」と「ゴダールの映画史」をお届けできることは意義深いものと思っている。是非ご覧いただきたい。(M・Y)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>